

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7

古今
宋雜志
六十雜上



古今和歌集卷第十七

雜哥上



豎毛と

傍人あらに



我うへる病そをくちう天門とくまれ毎乃へいのまづく
りよよとくほゆう。おもひこの病よへあへ。経門の
とくよれわひ乃へいのまくにくやあくさんとくら。こふ
き伊物なたうひく経入て。おきてよ水うれむる
をくよる。さくみせ夕うかれど。あまの川乃ゑれ
うのあかんとくは。はだ人のまくまく事あり

ああよ

筆もよほへぬあら産星乃と。まくみせ乃へのまくか
い乃えびくは。いのまくとく

らすもあら辰せうをかがめゆまきくおれをすゑる
おりてもらすとみ。たゞよかくもあくとせ
あすのうちりおきて唐経アシム。おもせにけり
そくせきよ。おりやまち。思共とお。まもるとも
居まわらぬ。縫る寶られどもあらわらぬ人よ
たれども。行きなまくとのおこはれ。是不
内氣居のやううおとくたちう紀とくとくあり
史記曰行錦雖微猶獨難學手製。左傳曰有
義錦不_レ今人學テクス製。とくふんさ。よむねともいま
それあらたうの人に。始くもくじとくとく
ひまくせむす。されど縫を換せ。とおむらり
げ古事記よりおとれよ。

崎を絶行す。まん度衣たをりゆ。ままでといとゆと
いふ。とおりのわとぞ。袖よけ。ひまくひぢれを
うわきまゆをだきとふつまんとおりよす
おもれぞひろく縫ておまくじとくとく
萬氣よ寛とくとく

階を絶行す。とくとくを付。とりぬぬとくとく
あお人のいとくはくはうに。おやいもうとくのと
うひ乃くまうきと。あがめよとくをいはとくと
うひととくとくをたまく。あらわら花なれ
ぞくとく。体ぬよハ精よ離。とくとくてほくとくとく
まうひくらむとくとく。けり。もひぬく。ま秋とくとく
べくとくとく。うの事。集と物語とくとくとくとく

本
おも

紫乃一かくはよしめ。まひみのへあへてアラ
もくとれのひくゆに。せき。ぬのたなはきふ
ぐもは。まく。いふ。まく。おがふへひと
黒ゆよ。その。まく。あらわと。ありふく。せき
やまく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく
一かく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく
とく。まく。ハ紫乃は。紫乃よ。おひくあれ。まく
め。おとく。とく。まく。まく。まく。まく。まく
くふとく。まく。まく。まく。まく。まく。まく

方乃如也

任物乃向もよはうの事な乃
とまわや

ま。たりひきくまうかくらへだ。元をぬけやうと
あひよし。祿秋ともちやうか位の袍水をだり
紫乃きゆれ時をめもくふ聖なるまみえだらん
りあり人地ゆよ。國をはるかふくゆめりまて、
ありとあ別たくおひよどりありと圓心はる乃
ちきよと阿さがくみせ寵毛乃威也めくらはく
も鷹也。ほゆとた在見也。も松原めくらはく
なりとうら。わふさりくらへ多剣也。と

近院の事はおちて思ひりま
色の如く人やみるに苦難の事
ひそむる事あつて是れを爲めに
やうと爲めんと爲めんと爲め
まつりよつまつ
いそむく乃な(義人)のを
もよまくはるはるはるはるは
もよまくはるはるはるはるは

至るを姓ぢり。ましもひとくらむ。うゆゆめり経との叙
齋ぢりむ。いのちの金とくらむ。冠すにあよどりてき
り乃君也。大藏冠すにあよどりてき一位よあよどり

アラムヨ一位二位とソノ事ニシテ
サマセ也

ゆゑ乃いすみち

思ひ出でてゐる。正月の夜は、月が昇りて、星も見えず、
天の川の事もあらず。かくの如きは、やがて
いつぞありたまふ事も、むろんと。うりはりの
生と死とをじて、より多くあり。或は死んで
しまひゆ。竹乃原がある。其の字へのとよも
字あり。是れ延長亭に。とある。其の號を
東内乃時。寺は、まことにあり。とある。
清和天皇、成務天皇の御代
二家の所乃至まことにあり。とある。けの
子、おやつよあつて、珍ひうる日す。

大年もとほの山もとあそひ代の山もとひしめ
さくや山もとまよ店乃古事代よりよ代の事もと
山もとお山もとお山もとめもとんとよ代乃古
もとむり乃事代より今ニ一条店萬氏山もと
もと山もとお山もとわじ林もと空てむりとあ
いとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
ねね。陽二林乃木。君臣合葉乃林までおり
まし。小盐山を萬氏也人祖乃古林たり。大智天皇
乃古時。後是も。既て萬宗の姓號たり。りと
常陸よりまれきるるよ。麻屋乃古林たり。まよ
えぬ乃御時。和爾え。月。大和。三
笠山ようす。まれ。さより。藤。陸乃御時。作。蘿

あまニテ是胃ある。ま自分へうへ。され。ま自分大成
せれり。今京又唐乃御。太宰家にうへ
事。か徳。二年。國院カニた。符を嗣ヒサシ。汝法とあら
がれを教とく。はよ祐ヒツ。あ。の。あ。二年。上の御。ト
す。有。守。の。周。乃。自。多。き。文。極。乃。御。宇。仁。多。え。よ
も。ト。ま。よ。も。多。家。経。萬。民。の。后。宮。ト。り。お。こ。も。う。ま。せ
ス。沒。焉。の。お。き。そ。ハ。氏。人。ま。う。で。が。く。と。神。よ
う。れ。く。お。が。り。や。も。と。ん。と。お。も。く。あ。う。や。う
寧。よ。ハ。密。通。乃。キ。事。ち。ち。伊。翁。よ。は。す。と。お。お。う。り。そ
ひ。ま。る。く。の。と。や。お。ひ。る。い。づ。、お。も。ひ。く。ん。と。ん。だ
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ひ。る。い。づ。、御。傍。よ。ま。あ。い。て。ば。車。の。内。ふ
車。ま。そ。も。と。思。ひ。く。ま。や。誠。き。の。うち

也尔只。也尔只。也尔只。也尔只。
也尔只。也尔只。也尔只。也尔只。
也尔只。也尔只。也尔只。也尔只。
也尔只。也尔只。也尔只。也尔只。

五
五
五
五
五

あまう風かみかのひち吹とち。さきもみ乃婆もぐりとくめ
舞姫絹あまととよわきてて、お座風雲のうつむ
少くともじよよきとあらそくのうつむれども、
一ともひとくせば舞姫よしとくをあうよんあら
ごと。たゞ舞乃ぬやうな紙をあくやうよしめり。ば
御えとくのくとくれもあれ紗をり。とくめいへあく女
とくく。男をぬ女をくとくと女ようづくくや。内裏
をもと雪外とつて。雪れくとくらじとふ。又管乃舞姫
清月の原天室。すす望乃室よおもく。うる時。日暮りす
琴絃ひきはる。拂あやまし山袖乃とと小雪の急
すすおこう。そやよれ女よれ。琴の曲よきよきとく
そり。あそひ袖とひきとがよみきよみ。是れとお始て

毎日おこり。また娘よ画りもん。ば娘をし女と
いふ彼女との事。

まことに女をもとめかくも絵被えびよまとそし女をもとめ
あれうちねあらうから。阿まくもとめども云。くもと琴
せりよとづり此五箇月十一月新嘗會しんじょう乃時おこより
代乃始より大嘗會だいじょうといふ。一様御祝爲宗貞遍照
香こうがとくらえある。又其家以ありすと上古じゆこ
きこへおこりとぞ

又其乃あをふきのむれおちあらうと絵被えびと
たがまくらんとよみひてよる

阿原あはらのたのおわいまうちゑ
わや浪子と匂ひよきよきひきとやあられとよきえ

はかまへぬかくもへぬかく。誰よりあらん。どうと着
人をもれどさくもなきてあられとよみてあらんと
寛平かんぺい御時ごじのまよひよけくをのこじと
くはきもとめで、まわらひ内官うちくわんのけくとよおやまに
内おうとよまえよきてまわらたりくらとく
人をもとめひて。あはおまくよきとひて。と
くもいもとよきよくねど。ほもい内官うちくわんのちくふきくろ
うのまよひよけくをよせ。おやとむれを津湯つゆとたゆ
あくと。おゆき残ののきり。荒人あらびともハ后宮ごうぐう乃後方ごうが
女荒人のゆせ下落げらく女房めいぼうと女荒人めいこうじんと云

ト ゆき乃翁

古文子

七

もたま乃、あやいつ、おとづれ乃、破の浪ふ沖よおきうち
おこす、たれの小瓶を巻く。こころまれ破の
やうにけ、沖よあよきうと。人のおまくよ浪入れ小瓶
乃、うまとくまゆ里、風信すよ

むかしわらこまきと申すにてあくまへとくまゆめよ
こゆきの破よりあらあまよ けちうるて後り
沖よおきうき人のおまへよあまとえすまへゑれ
とて。あよつをたまゆ。じあらかまゆ。后
まよひき酒司。自よ酒城まくまくおきり。ごゆり
まのいそくお様まやうり
後 るふうり聲才そぞれ紀む。あらのア一とくわ
まれ乃元をばくわれす。あら屬とくが、う

かくまく御簾のへきれもむくはるく
あれりあめれまくらゆ風のまくらそぞれ

卷之三

玉のあと八月紀ノ月和也
みよしはこよま宣和が爲りのむきと用ひど
儀の古篇がて御もとへる也。此歌て文一
にすわくむき乃約とをくらべせど。一字、絆約と
うんぬよぞとしん事。松聲方聲弗うち瓶と
乃婆とを仰。此人を於て乃約とてありたん瓶
乃婆とを仰。瓶と瓶よとく。沖よりてよ
えりとへり。一祝序後りよもれあれか在と
を云とつたり。信成が事ゆ。ゑ

おまかの物とひそんとく。あめとは、あたるまく
おまかとまく。おまかの着と云也。

おまかのまくはいふをもす

まくさんあひかへ

おまかとまくの様あれやうもよるまくとまく。おま
かとまくもよるまくとまく。人のもよるまくとまく

まくとまく

かくまくの人の家よあからくとてよう。おま
をよみがえりきくとてよば。あ、ああくとてよ

くとてよ

簞乃ものとれあさうとくわとうつまくも白ひわが
せまわ羽乃、とく。とくおなまくとくあおど。人の

あさうとくのとくあうとく

とく

後人あくと

まくまくの月とまく。おまかのあくとてよば。あく
月乃とまく。あくとまく。おまかのあくとまく。おまかのあく

とくとく

我らのまくの神やおもててゆよく月とまく。
嬢をいざむじてゆくとまく。月とまくとまく。
あくとまく。あくとまく。おまかのあくとまく。
きとまく。あくとまく。おまかのあくとまく。
おまかのあくとまく。おまかのあくとまく。おまかの
あくとまく。おまかのあくとまく。おまかのあくとまく。
おまかのあくとまく。おまかのあくとまく。おまかの
あくとまく。おまかのあくとまく。おまかのあくとまく。

よしのひいとこ病うるすおひてげあうあ
乃老うめうてあらむとまじにくみて。國かうけ
娘の門ひきのくと。何うかへをほゆりどま
せうれども一乃へるあらどおろうたる事おや
くあらも乃老うめうだりよきは娘ひといふ老
て。かくかくあらねがくのとれと不まうりて。り
あるとおのくのとおひじて。もていづくみれ
山のすまきと。せうれどもせうれて。俺
て。さくらじとおひて。月乃じとあらさる女とも
いはぬき。おやじとおひて。うかんをまくと
もまくと。ひくわくおひて。ひとまくと
乃老うめうと。おひて。うかんと。へて。浪

ちくさむに山乃老うめうりくさうへとあらぬよ玉
て。うじと。うめうと。うじと。うじと。うじと。うじと。
家ふみく。里ひあくよ。ひく。あてく。うつる。うつ
かくと。うく。はきと。うく。おやじとく。う養
て。あひと。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
はひと。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。

うううとや。おぞほてあうかくで、塘をひとまえ
事より、獨りよるをひそん。おゆりてくやく
もあれどあつまへおりづきを、又信をあらはせ
おきよ國更紹よあきよ人獨りよく
ゑす。ちういあぬが、嫁乃きもあてゆく
バ月十五日乃日のくまくらふ。け嫁を山よまぎ
のをもきてゆりく。きもとあおつむきりくれ
びくふをもとてゆく。けもとおおつむきりく
御おりく。きみちひ山ともまくして山とりく。
ちういありゆとしむらゆく。け税、嫁がくわざ
せやう。山不有あねども冠あす。おまく事もあり
範禮ひごといほれと空ゆ。

卷之三

古事記

白井本

七

紀乃月の記

かにとどくとまくまく月の里もあると曰ふ
月教のいとまくを向うやうだとおひそむ。され
どもあくまでもある人を打こまく神などはくわ
まくことじくを人を月かよみてりてりてくも
あるうらをほりある人をも。多教よはむたがく
そくとあるくにまよぢうばくとまわれねがりふれ
ぱくおりふむうとまゆるも因ふ也。

池を月のみえうづくばくも

山うらを月のみえうづくと水底の山乃端だくまでいたる月教

月を毎月の月の日めとぞやうのとあるくも

産する牛をとせ天台教は月降不降水昇不
昇との、こうぢう

歌

達人不和

天川をまよひまくともやうれどまくとくとく月をうきう
あまた川乃きのみまくともやくあまく月のさうり
とくにうがれりとも。まくまくおはははるふくあがれても
まくまくともまくおはのふ。まくまくおはははるふく
とくまくともまくおはのふ。まくまくおはははるふく
のまくまくともまくおはのふ。まくまくおはははるふく
とくまくともまくおはのふ。みおまくおはははるふく
くまくまくともまくおはのふ。一程御後落水乃ふくと
もおとふ。あらみおとふもぬくととく。まくまくおは

みお同

あら月と月の山が、あるおとそおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

こねうなみえかり、おとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

あらひく乃翁

あら月と月の山が、あるおとそおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

わらくにまくおと月の山が、あるおとそおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおと

田村乃仲時と文陸乃は事なり田邑ハ山陵也在
是雄女天安元年二月廢其夏秘世貞知之若

者是又云此事既遂被廢卒元慶五年正月
六日薨以太子為海院母洞惟高二年而退

行子敏信とおお母

おやまくとくわく角一満れどもかんむりの
うき乃月の満くあきハ雲うきの満
いとくよ人のうきぬあくまく
とあくまく

卷之三

德人先生

あらかじめかねておもひたまつりの事
あわせまわすかぬ。お抱乃へとくわんをわざわざう
いざなみをゆくと、もんあはす。がうかの家事ハ皆空城
の御免を蒙るやうてあるまのことをのうす損
拠しては素乃様よつまくまちまきでも、意の物ちれ、想
まつておひつけられぬやと、おもむかげに思ひて
おまかせ。梢乃は素を風ふゝもあつておらむ。かくもあ

乃至其。而猶。之云。義。
矣。後拾遺集。

乃きは。あめねと云。義理よを人と
あり。後拾遺集よ

とよひうすおろかで。まきまきとつらむとつらびと
りくべへも。がよまほ乃あつと。
宇の聖事の法あわづれとひととちうんそくし
りすくさめで、おじ聖事の法水乃今へぬくうち
たれども。おのれはあらんをくみそののう事あ
きどり。紙と書きよしし縦てあり。はまみき薙
削や。あめのき。しー。かで。おじ水とあり。うる
あよはえくさうとくとくとくとくとくとく
ほくとくとくとくのをくまとくとくとくとくとく
およぶ。聖事の法水とく。本乃事といといつ
いの野中乃舊みくみよ。じぬは源らりも
えぎ乃くよりて。おじとくゆ

聖事あよ。漱くやさり。ん聖事は法水薙を擧
あれ。おもむかのうのう。おもむかて。おもむかと
おもむか物いひくら人よ え痛

おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。

墨中乃清水とく。おもむれ。

の聖の法水とく。おもむれ。おもむれ。
いや。おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。
おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。
おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。
おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。
おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。
おもむれ。おもむれ。おもむれ。おもむれ。

卷之三

卷五

我身れ寒毛とて。迷懐やうり身やも乃ちあらを
みる。あらとく。一花も一風。うこひのま。ゆよほと
おき。けり乃るやまと紀。まをそよひとく。男の方
ぢうち。男女を對。さうさう席の間也。室紫にはす。六
男乃道世の内。むすめとあらひゆふ。うそううそ
とつう

せや。ゆめりあう細いはがのくらう乃方と、さへもちうる
きよしむほえ、かうあくわらふやうのうそと、我こそ
あくよや。さう、乃く、ハ、よけりあう事に、いひ被ふ
ぬき。若憲の御用。大化ニテ、まよび照付御
じくらう。さきト、もれてひきうちたま事とす。
まち。國史云。嵯峨城の御用。弘仁ニテ、六月、傳をつ

也。猶豫を以て之を承り。弘仁ニシテ延喜乃仲
時よりして九十餘年を及べり。

をくらべてゆかずもよ
とせきりんじゆふくよ
おやあくねりせのトキ
おひのれもぬじとせき
人今世

社乃下多もおれも約もあきせとう人もやうとも
草の木の下キでもおれをつねあとみえり。もう
生じおれとどく人のうきよとくとくまうす
にこう。大薦城社^{おおあらぎじやく}ハ能國教^{のうくにき}也。山城國^{やましろ}はあくまうと
あくわうせう。一説お和城^{おわじ}也。あくに乃とくもじと
うりたるとおもくとあぐいと。左よさくく麻と
ざくを乃くもあくむく麻ありと。すりにとだよ
あく。一種津説。擧麻きらくのむられ色よ仰る
ある。或き麻の一ふう。おま是を伊勢志摩^{いせしま}
よふとみう人のうり。約もととあにき不毛をうり
ととくむへおする。世俗よりくまうつるやう人ほ
よ。もうう乃下多もあくれをみてうくぬともよ。

後精遺集 惠きよは師

書^かはくとてうんあるとゆめまあるやく約のまくあ
うの約もととあぬちととよたう行のあやめをやうつ
をゆきとあくぬれ^れととじてあくへいとくもそくは
うずれをとくのほとくぬあとばやくをうこうひ
て。とくちをおれとぞくへ縁をのせまくを
きくや誰はううよやく鹽乃くも我ハおよくうか
スをおほとものうれもまく
やうはううやくもや草若^{くわ}ていもひまきをれ
も。底くじやのうくも我ハおれとくへだく。鹽の
あくくも我ハ辛苦^{さいこ}よれをきててハ蟲撰^{むし}
式よ鹽^{しお}をもとくとくとのよ熱^{ねつ}熱^{ねつ}湯^ゆをとくも

羅波乃ニ津ハ清津もかうる水うことをもつて
とえ。湖寛とお湖のあわて乃くもめことだるとえ。又
從うくもとのもとてゆくやのよりふくらむ
ぬとりすむへきねれど起居草若たれをせきて
あるうやうとひづくまば暑しきをうてとま
羅波乃ゆよもくがえきつ。たまはうげことうみ
通後ハ羊をとまうすよ

をとるやゆまとあそぶとがくまうわくま

汝あ乃れ假きう

老らくのあらまうせと門まてかうとあらわとあらまうと
じ二つのうまむ一ありうめうりのおまわれ
うかうとやく

老れまくべととくあらじ門まて我へゆと
こくくあらまうとあをとせ平ちくもくのむじま
をとめうがくじやわらくもくいをとくにゆ也。左の宿
さよばくうれぬのまよ(集)のまよ(集)宿人の撰者(かくしやう)
ぞうてほけはまよと。左字(左)宿人(かくしやう)のまよ(集)とて勘
あらん事いとうあらん秘事(ひじ)をといふ人あり候を
をくらに

うもゆまもゆまもゆまもあへとあらうひやうよぬ
さよばくうれぬ年もゆあ。ううううとすぐれらうううう
うううううううううううううううう
うううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう

たる事と云ふ事も一様なる
とああとむべととておもつてきるゝ事の跡
とくをうれむとくともうれて、もとほきちく
ゑよひもあるとせば、まかくるうじらひと
ばやくもぬようひもく。まばはるよりいきめり。此
ノ後のふせ

続山に立すとまくまくわうおへをやめゆき
ひすきほんのひくちは乃くろめを
かみやうとりどそ、まくあひまわらうづくま
あくのどくまはてまくらうをねるもみてゆくと
きり

やうひくの翁のまくみこもくは仕ゆりき

時よたりひくまづくもくとせよもえゆりと
らうにゆくねどもくとくじくよけのみこのと
じうとくの事とくかくせきてまくとまく
あきてみましてくはくとくとく

業平母体^{タケシタ}内親王^{タケシタ}ハ極^{タケシタ}才八の室女たり

貞觀三年九月よ薨を。これを師^{タケシタ}毛^{タケシタ}とあれ
じげはよあくどとみれ事ハ像やう事たり
れいねをまくねおなありとうとくみくほきも
母乃おねがのぶれぬられ乃とくとくひくよされ
じ。ばくみくほきもとあうとせよくねおな
禪^{タケシタ}をぬ別とせ伊^{タケシタ}むひとふすてまくあうとれど
まくらひく乃兄行平^{タケシタ}也とまく乃仲平^{タケシタ}日後^{タケシタ}やれ

とありしもとよりかひきく。うおもひきくひ
山をひりう。おれらをたへぬをくどう
也。あらひう乃翁

をかよみぬめ乃もくたむかせととびくんのそれあ
せらに乃れぬまわといふを乃なくもがまちうと
人のものあと。我よをじめどせらん人のまゐるを
いぢむがとう。くらうもが事ハ云々わり。併
あよばからとひかくあり

寛平乃師はおもひ乃まの亭舎おも
お原乃むねやも
おもむろやへ隠りうるむるもくもおもまねう
白宮の八重すうをまほくもやうと序して、そく

我もおもむく。雪れやへむかく降くい也
やへまくもたとひく

我とおもひてまくもあきらかくよいかといふを
誠あよあふるおもき。おひづかといつあたり。薄
乃ゆももゆ。ゆふも。おもゆ乃ゆくうてをも
そそがりたるがよくとおほく

也

君をもむく。四葉おもむく乃をひまけくと
いはもくさ山乃る也

おも一時うのみよひとをのこともよおぢ三毛
たまひておもひあそひありまつてよはくも
つまく

おほきあそひハ御極也

卷之三

三

かゆき乃翁也

れぬとてちうれ方をせんをもるゝあるまつた
えぬとてちうれ方をせんをもるゝをどへあよ乃
はあそびよのい事一ものと老のさひとじとくろの
あくやせめをそんを賣るをもり。がくをこうしと
ほくよくから。放きあ。くみくーたと云國のを
毛詩云兄弟閨閣外樂其勢往云閨恨也樂
禁也勢侮也兄弟雖門内閨外樂侮也閨の
字城すみことのふも。もんをもあてたがくも。も
ば相はすようをよとよとむら庭つる事ちくね葉
事多くまくまくと空氣にどう

見りしす

謫人あくい

ちやあすう活乃橋のなれをそあれとへ思ふまつてのを
字活乃もくもく海をぞとあふまのをぬまをと
ちう帝王系圖云。考陸天皇二つよ。啓明和歎始
て字活舊経つくととり。大化二年より。廻森御
時よいよとて二百八十金を給す。りをれをとぞ
ゆきり。源氏もうちのいとねからくをま
さくとあり

我みくもじくく成ぬ仕乃はの岸乃ひおれいくよへく
をかのひ乃まの姫ねをひくせくみむ。我みくも
ひくくちうめうとねよおひひいて人よどひもくや
にまく。姫ねを。おきたまをねとねりよ。いく世へ

ぬさんとあるをぞたゞ。左近ひめ桜とよもじらひやう
とゆまくさくら。ほゆよむいみとよもじらひやうよめ書
あはれひくらとよき。文徳天皇天安元年のが幸を
げます國史よ記をば。但ば御傳よ記「もうよおもか
きくそ」。帝このうへ、城のまが御よ。御神あくわきそ
むすめとおもちあくわきそ乃とばせり。あ
くわきそとおもちあくわきそ乃とばせり。これ
まもとあくわきそおほきそ。佐士よおもちあく
つひでよ。

佐吉乃岸の原松人をまへて
とくとくあらよめんとくりあや
あわうがおもてやで
て西

おまへはおまへにせどもあくまど。乃山よひのふるをすら
とくよみくもてえとつもよきうり。今おりへも。古御よゑん
おもくよ。あくよ。乃山よ。あくよ。うぢりとろくに
よや。又说おれとひめねとて。美奈乃。こあうきとよ
さわをいふくわんとくもおまちむじ事也

住者乃はの姫松人す。いと世うゑ。とぞくもれを
とぞくれひめきのり人よてあくも。いとくもれを
ごくれもとせり。せう處。くもじあおよもとまを
持うちいそとの小ねあくせく。万代。もとをもく。持
あくすあく人のゆく持かの人ゆく。き
城を乃小ね。たがせう。あ代。ゆく。種をもく。
もく。う。い代。ゆく。とく。う。い。小ねどり。あく

とてこしの角くづをくわす。おとひひて文字もじをくわす。
とておとせよつてそ小ねとみ破はきを乃なといふとて擇えら
りとをきう。又小ねをひりね。一葉いっようのねななひと
とくまかうよちひれね乃な。山の歌うたも破はくと
生なくとくまかうや松まつ乃な。種たねまく事ことひもくわど。あまま
まくわくとくまかうや一方いちら舞まい。

とくまかうのね乃なとくまかう食くはるやまつまつと
ばくとくまかうとれ

かーほせまやほくまんもが乃なのへよだてれまくかく
くうてゑう。せまやほくまんがおのへよもてうなまう
ねどとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
よおまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

乃なのねとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
と尾およとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
備そな列れつと尾およとくまくまくまくまくまくまくまくまく

藤原惠風

誰だをもかく人ひとせくまゐねねしれもむむのをかくまくよ
かくねをくさるさるあれ人ひとよせんせんとせんせんよ、もん砂さ乃なまく
ちくちくで首くびの毛けをを。ちましまじこうれきのこくこくても
まくまくまくまくかくまくかくまくだだひひと。ゆゆををととよよと

清人志しき

見みくくううかかのおおううかかああひひううふふほほののほほぬぬわわくくうう方方よ
仲なかつつももああひひよよううほほよよおおををちちてて。よよくくぬぬねねねね
ああくく。よよううかかかかととのの迷め盤ばんやや。よよううみみばばんんと

はてつもあひハジのすらあつて。必波の立
ち

まくらうとあさりにさせぬがれはまてゆるありもぢ。
波神のまきよらぬれあらぐれ乃ちのまくらて。津瀬瀬
山をゆふとや。波神を瀬乃むとどぞ。まくらとゆふ
わざくらは海の瀬うねや。波神よ。あ底とまくらま
はまくらめくと。万葉がよ。大瀬よ。河のあとも。又
まくらうとまくらめく。日本記よ。波神とまくらま
くらとみゆき。あちあすのちいそだく瀬の立ま
つまくら。たかくまくらゆく瀬うねゆくと。あくらめく。
波神とまくら。波神とまくらむよと。せで。がくくにまく
と。まくら神とまくら。まくらと瀬うね。波とまくら瀬の

ゆまとふ事さきあうべくもあくねと。波うべのあ
をゆふとまくら。瀬うて。瀬うゆとよせて。まくら
り。み原よ。せくう瀬のあらくもみまくらほ。まくら
わ國乃原よ。まくらかうとのごく。あぐくみまくら
西。まくらゆうて。あくね。万葉がよ。ねくとよせて。まくら
と。まくらみまくら。あくねくと。まくら。まくらと。まく
ら。まくらと。まくら。

時。まくらと。國乃浦。あくね。乃浦。まくらと。あくね
あくね。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まく
ら。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まく
ら。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まく
ら。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まくらと。まく

不ちれど衣通姫もか乃宿よ宿をあれく。玉傳
宿乃古神といわきらにこう

羅宿とゆきちくしすまふるみかへ宿の國裏宿の宿
さうはぐみや乃つやくん。國裏宿よとづのち紀
ヨシとせ。國裏とひそんとてあまく宿と云。裏と西
さう宿よりだま夜ハ無く、浦人の夜よりあうせで
乃あらむとあたる国生寺也

ほくゆとくしてのくすり宿の宿よ宿よ宿よ宿よ宿よ

前原とくゆと

馬頭かひおさつの宿よ宿の宿よ宿よ宿よ宿よ宿よ宿
さくとおひひとまつ乃モキムアハレドアリ

りふ事とくねまと写すとづよとづよとづ
だくもびが宿とうきていそんとそだり

西

ほくゆと

おさの宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿
たゞ乃宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿の宿
仲つるさんとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆ

あははよとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆ

かふもとおゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆ
羅宿とよおゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆ

たらまとまと

ぢひまくら人の住吉よ宿よ宿よ宿よ宿よ宿

つりまき

માનુષ

住むとあまへ居ぐとおもひうへるがおふとりよさり
人やまされま乃ちよどりふきぬじすくまとあまへ
居ぐふくも。たゞあまされゆづ。ともハ生なとくじゆ
たよは。あらゆる時よたかひとくまてあま
あひくとあ

雨かよりたまふ。船とくすゆまじくぬれぬ物ありて、
雨乃ふるよ。因裏トトシ船をくすゆせきをどくも。船よひくす
てぬる。とくりうり。船よひくすゆかくぬれぬい。因裏とくりうりをと
ばふよせあり

はくまにゆるふ
あめうら日暮れ

かくで御まどりよ手と駆みてトヨモセ
おれを海森七日九月よはるまと大井のゆ
幸あす。げ自九首乃影よて幸をとよすせらき
西川よし大井ひやうり。竪立側たとのをうき
芦たつ乃もよてよしらへとゆ風よ。木をみてかづくね浪くとみ
川島村山の風よ。木をみてうづぬ浪くとあらわに
立れり。刀あまととくら

中勢乃みとの山よかをばくらておぐち
ゆきあそひく自はるまはうじよおもひ
さうりきくゆまうりほくくうりあくまんと
あくらをうふくまくたまくまうらう

任物

水乃上より下へあそそとまづといをゆ
池の上より下へあひ乃君までやうれどもあそそ
とひきく。さくめをまくべくわをととをを御をか
すり。是を君船に水と蘇浮と水又覆舟と
云ふ支のいきう。おりぬ乃舟を底船と云ふ事も

かくとくはてくわく
唐琴すよりをいせんのむぢう

さへいは所
教までひがみくさか聖ハ源のとてひて風ぞなきる
事までひがみかよひておと角れく琴火たるれを
ひとよく風乃ひくよれれあるもいほへまでもし

支せい注所

トモシテ、アリタマニ。アリタマニ、アリタマニ。

卷之三

あくまでもすばる乃自身ひそひておもひてせのうれいの漸よきかふ
ことよりまづにとくおつる。壁乃あらわしめりりひととくで
せのうきと記乃ちうるまゆうじゆくとひのを懐也

乞
乞
乞
乞

乃知其爲

おまえさんをあしり白む乃ちもとおう油のせよ
糸よほくぬきぬきと瀧の水よおこみくね
人よあひじびよたくちうがおれのせもよ

西がたうと。懸をかうとよやうて。是もむを懐よ
とあり

より聖母瀧と云ふとよあれ

承均法師

たるよひもとをさす布たれやせとへまねじらん人能
誰もあひけらせる布とやあらん。をつて垂
どもどく人のなことあり

野庭と

神たいぢつ

清瀧乃瀧の里と云ふくため山か衣をりてこまゝと
きてたまのせ、乃ちかまのふぼくらもあて山
か衣をりてこまゝと云ふと、ひそくおくりとも
らうとおなづねど、みぶわ乃角およにすればく

とよも。山かりもうち山伏をふれ山をあら夜也
但やまよはあらんとす。重き絆けもくあらん
そくや、まよあむ。病りあらぬもかと同也

清瀧を破破つも。大井乃川上とあまど、び等すを

よの瀧すくとあらうと

立草ねあらをさせぬよ。我宿でのひよと云ひただ
説門よあらて、瀧乃りとある

伊勢

たちぬきぬき一人とちむれとゆひあら布さくまくに
さくもぬきぬきと。仙人もしておもとあはば。行やま
ひあら布をぞくとしと。行よ瀧をこ瀧布
とおわく作まり。げ大和乃龍門ちひ仙魔うて首

仙人のもとへんり。龍門の仙とのひづれをも
たちぬもぬあき。仙人の衣を裁縫ぬまゆをき
ほやくもあき。何い始の布をもくもくんと
あざくらうこころよより

朱雀院のみとれ布ひさの鷺御らんさんを
あん月乃きぬれ日ねくい角くそけの壁
あくあく人よ被ふを経るふよあく
かん月七月うち。ぬもひまも月とよせまよハふ
月とよせ

たちはも乃ねたるとき

ぬなくてさくさく布と纏ぬよ我らとやくわくとま
ぬまつてよし織布とまよどをもうに事なれがまよ

布引説なれどめたくてらくやう布と。我
ゆすゆすきて。革あくさくまくとも。あれも纏を織
布とまよ。ぬなくてさくさく布とくじくぬの
ひきとりよ付て。らくせきとよみみやから。何まよ
ゆづりて。滝ともひもで。さくせき布とくじく後里
ひきのひきをとは乃纏とみくとよ

あくよ

あくたまう浴乃水とまは。もうおよしむくわくとま
ぬまつてよし浴のあく乃と。ほくら毛てくじくと
まよ。と。滝乃毛く。糸をもくくよ似せて。人の
筋くよと。おももく。ひきぬかたまく。ゆよと
織布と。せうやうやう。瀧字たまると。もむ

おまへ瀧をとふあれ

又

扇のまことわらもまくぬ白雲、川世をとて落す水まをむる
風れふあどどとまくわまくとまくとまくとまくとまく
せまくおまく瀧乃水そあくとことづれ里

大盤所也
因もく乃門はよかまうのさよひよては屏風
乃絃は清くさくふ瀧乃瀧ありきりふおり
うこれをひそてすとあくまくぬ人よお
かせみれまきともある

三索町 椎高親王ノ母

おまひきくはらうもの瀧もわねとくまのやまく
翠の草をひひくまでくまくまくのうちよあめ

おまくと瀧のやあんおいとひみきと育のまくえ
ぬと今内瀧の陰よよせととめり。まくまくまく。屏
風乃絃をとく風をとくまく。ま衣のまくわくと。因ひ
せまくとくまくのまくらをとくとせくとくひく
がく。ひまくまくまくとておひきめ。因ひまくとくひもく
まくとひ乃うちよこあたる。まくまく。まくまく。まく
みきとむくとくとく。とく乃絃の瀧をまくほりつ
び組み。おまひせくへ。おひじまくまくせくら
文集五絃彈み第五絃聲が掩擦。瀧水咽凍
不瀧流ハラフとある
屏風乃絃をまくをとくある

ほくゆき

笑をめ時より後もおもてせはまむれやきのまみる
あれもづぶふれをもれどまじて一時よりおもて
せまむれやあんがきのまやからとをすら花の字

や

屏風の壁よどうみありませむらう

ねよころのま

かうてやた山田乃ひのこたみて写しうわされおのうきか
おのうきれどくらやた山田の縞乃こまくわてちじゆふ
とくらやた山田乃ひのまこまくわてとくらんあめ
ごまくわてこだくまて岡切いひとりもこまく
まくくとりく

古今和琴の集第十七終

